

# 奈良 兵亮（なら・ひょうすけ）

## 1、プロフィール

歌人。昭和5年「吾妹」に入会。13年「芸林」創刊に同人参加し、尾山篤二郎に師事する。その後「砂金」にも入会するが、各結社とも有力な同人として活躍した。

<生没>

1900(明治 33)年2月3日～1972(昭和 47)年5月 31 日

<代表作>

『堆朱』

<青森との関わり>

青森市生まれ。昭和 17 年八戸市に移住。35 年地方歌誌「氷炎」を編集発行。翌年に北奥羽短歌会を設立する。

## 2、作家解説

函館商業卒業の頃より作歌をはじめ、大正9年「海峡詩社」を結成し、歌誌「海峡」を編集発行した。昭和5年「吾妹」同人となり、13年「芸林」創刊に同人として参加し、尾山篤二郎に師事した。17年に八戸市に移住する。「芸林」退会後も常に旧尾山門という意識に支えられて歌を作る。

その後「花実」を経て、35年に「砂金」に入会する。各結社への参加時は常に有力な同人として活躍し、そのたびに「芸林青森支部」、「砂金八戸支部」の結成をし地域の短歌の普及に努めた。

また 35 年に地方歌誌「氷炎」の編集発行をし後進の育成につとめ、翌年には結社を超えて「北奥羽短歌会」の設立、38年に「北奥羽短歌協会第一作品集」の編集発行をし、青森県の文化発展のために先頭に立って尽力した。

函館大火で類焼し職場を失い、今までの生活の一切を無に帰して生活的に苦しい中であっても、兵亮の歌そのものは澄んでみずみずしく、少しの乱れもない。定型を尊重し平明で、実に厚みと深みがある。

作歌歴五十数年に及ぶも生前の歌集を持たず、「自分が死んでも決して遺歌集など出す必要はない。今までに詠んだものは皆活字になっているから遺歌集という形のものはいらない」と歌集の出版をかたくなに拒み続けた遺言ではあったが、共に歌人であった妻峰子の手によって昭和 52 年に遺歌集『堆朱』が出版された。

### 3、資料紹介

○『堆朱』

図書

1977(昭和 52)年9月 10 日

190mm×130mm

昭和 12 年から 45 年までの 33 年間にわたる約 3000 首の作品から、500 首を厳選し年代順に編集された遺歌集。黄土色の布を張った表紙、箱入りで、著者の写真、略歴、妻峰子のあとがきを掲載している。